

## 予算決算委員会都市経済分科会会議録

### 招 集

令和2年7月21日（火）本会議休憩中 議場

### 出席委員（8名）

（分科会長）今 城 雅 子 （副分科会長）三 嶋 秀 文  
遠 藤 通 岡 村 英 治 尾 沢 三 夫 中 田 利 幸  
前 原 茂 矢 倉 強

### 欠席委員（0名）

### 説明のため出席した者

伊澤副市長

【経済部】杉村部長

[経済戦略課] 若林次長兼課長 倉本産業・雇用戦略室長  
藤堂産業・雇用戦略室係長

[商工課] 毛利課長 高浦商工振興担当課長補佐

【文化観光局】岡参事兼局長

[観光課] 田仲課長補佐兼観光戦略担当課長補佐

[スポーツ振興課] 深田課長

[文化振興課] 下高課長 大野原課長補佐兼文化振興担当課長補佐 原文化財室長

### 出席した事務局職員

松下局長 土井次長 森井議事調査担当事務局長補佐 先灘調整官

### 傍 聴 者

安達議員 石橋議員 稲田議員 岩崎議員 岡田議員 奥岩議員 門脇議員  
国頭議員 田村議員 土光議員 戸田議員 西川議員 又野議員 矢田貝議員  
渡辺議員

報道関係者4人 一般2人

### 審査事件

議案第79号 令和2年度米子市一般会計補正予算（補正第7回）のうち当分科会所管部分

~~~~~

### 午前11時52分 開会

○今城分科会長 ただいまから予算決算委員会都市経済分科会を開会いたします。

先ほどの本会議で予算決算委員会に付託された議案のうち、当分科会の審査担当とされました議案1件について審査をいたします。

経済部所管について審査をいたします。

議案第79号、令和2年度米子市一般会計補正予算（補正第7回）のうち、経済部所管部分を議題といたします。

当局の説明を求めます。

毛利商工課長。

**○毛利商工課長** そういたしますと、令和2年度米子市一般会計補正予算（補正第7回）につきまして、経済部関係を一括して説明いたします。説明に当たりましては、歳出予算の事業の概要により御説明いたします。

それでは、事業概要の5ページをお開きください。まず、下段になります。商工業振興費の商工業振興資金貸付事業として92億7,350万8,000円計上しております。これは、鳥取県との協調により実施する商工業者向けの融資制度に係る資金の預託額を増額しようとするもので、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域経済変動対策資金をはじめとする制度融資の件数が非常に多く、今後も大幅な利用増加が見込まれることから、予算を補正し対応しようとするものです。

続いて、6ページ上段を御覧ください。商工業振興費の飲食業等設備投資応援事業として4,500万円計上しております。これは、新型コロナウイルス感染症の拡大で影響を受けた飲食業等の設備投資に係る店舗改修費や業態転換に要した経費等を助成するもので、5月中旬の申請開始から現在まで多くの申請があり、今後の相談も多く受けていることから、予算を補正し対応しようとするものです。

続いて、同ページ下段、観光費の宿泊業緊急支援事業として2,000万円計上しております。これは、来客数が減少している宿泊業の支援のため、米子市民が宿泊または飲食した際の利用金額のうち半額を助成するものでございます。6月16日から事業を開始しておりますが、見込みを上回る利用状況であることから、予算を増額補正し対応するものでございます。

続いて、7ページを御覧ください。上段、観光費のテレワーク環境整備推進事業として375万円計上しております。これは、今後サテライトオフィスの設置やテレワークの推進などの多様な働き方の拡大が見込まれ、その受皿となるために市内宿泊施設が進める宿泊施設利用者のためのテレワーク環境整備等の取組に対し補助を行い、支援する事業でございます。6月11日から申請受付を開始しておりますが、申請事業者が見込みを上回るため、予算を増額補正し対応するものでございます。

続いて、7ページ下段、観光費のGoToTravelキャンペーンPR強化事業として330万円を計上しております。これは、国によるGoToトラベルキャンペーンの実施に合わせて、インターネット上で取引を行う旅行会社のホームページ上において、米子市及び鳥取県西部地域などの観光資源を紹介する特集ページを作成し、旅行者に向けたPRを強化し、観光入り込み客数及び宿泊客数の回復につなげようとするものです。

続いて、10ページを御覧ください。上段、社会教育総務費の芸術文化活動応援事業として400万円計上しております。これは、公演等の開催促進と芸術文化活動の継続を支援し振興を図るために、新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインを遵守し、入場料等を徴収しない芸術文化公演や展覧会等を開催する主催者に対して、対象施設使用料を50%減額するものです。

次に、10ページ下段、社会教育総務費のイベント開催促進事業として3,000万円を計上しております。これは、イベントの開催促進を図るために、新型コロナウイルス感染拡大予防対策として入場者制限を行う有料イベント主催者に対して、減収となった入場料の支援を行おうとするものです。

続いて、11ページを御覧ください。上段、文化財保護費の文化財等管理事業として22万4,000円を計上しております。これは、所有者の一元化を行い、史跡整備の円滑な推進を図り、利活用に資するために、市史跡尾高城跡内の県有地と国史跡むきばんだ遺跡内の市有地を交換するための差額を補正し対応するものです。

続いて、11ページ下段、体育振興費の地域プロスポーツ緊急支援事業として304万2,000円を計上しております。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止、延期を余儀なくされていたプロスポーツの活動継続を支援するため、本市をホームタウンとするガイナレ鳥取の市内でのホームゲームについて、感染予防対策に伴う入場者制限によるチケットの収入減額分の2分の1を助成するものです。

以上が今回の経済部所管部分の令和2年度一般会計補正予算の概要でございます。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

**○今城分科会長** 当局の説明が終わりました。

委員の皆様の質疑、御意見をよろしくお願いいたします。よろしいですかね。質問がございましたよね。

そうでしたら、暫時休憩をさせていただきたいと思います。それでは、経済部所管の審査を午後からにいたします。暫時休憩いたします。

**午後0時00分 休憩**

**午後1時00分 再開**

**○今城分科会長** 予算決算委員会都市経済分科会を再開いたします。

当局の説明が終わりましたので、委員の皆様の質疑、御意見をよろしくお願いいたします。

岡村委員。

**○岡村委員** 何点かお尋ねしたいと思います。

まず、この事業の概要の5ページの下段なんですけども、商工業振興資金貸付事業についてお尋ねしたいと思います。まず、これは補正前と比べて倍以上の事業規模に膨らんでるわけなんですけども、こういった規模になったのはどういった理由なのか、具体的に何か数字がありましたら教えていただきたいと思います。

**○今城分科会長** 毛利商工課長。

**○毛利商工課長** 預託の額が増えたという原因につきましてでございます。状況につきまして御説明いたします。コロナウイルス感染症の影響もあり、例年に比べて非常に多くの融資が実行されているという事実がございます。融資額としては、5月末までで約100億円、これは預託額にしますと約22億円でございます。6月の実行額が116億円の融資額、預託額でいくと27億円というふうになっておりまして、昨年に比べて8倍程度の、融資額でいうと比率が上がっております。これは、コロナウイルス感染症の影響による地域経済変動という制度の融資が非常に多く利用されているということが原因になっていると思っております。増える状況といたしましては、そういうことだと見ております。

**○今城分科会長** 岡村委員。

**○岡村委員** 今おっしゃった制度融資についてですけども、これは主にどういった業種とか、例えば事業規模としてどういった方の事業者が活用されてるか、何か特徴的な点っていうのはあるんでしょうか。

**○今城分科会長** 毛利商工課長。

○**毛利商工課長** 現在、先ほど言いましたコロナウイルス感染症の影響による地域経済変動対策資金につきましては、鳥取県の信用保証協会のほうからいろいろな資料をもらう中で、その業種についても見ておりますけれども、ほぼ業種の偏りはなく、全般的に利用されているというふうに見ております。事業規模ですね、規模については、ちょっとそこまでの把握というのはできておりません。

○**今城分科会長** 岡村委員。

○**岡村委員** 分かりました。

続きまして、次のページの、6ページの飲食業等設備投資応援事業についてお伺いしますけれども、これも補正前に比べて倍以上の膨らみと、事業規模になってるといったことなんですけれども、先ほど5月中旬から申請を受け付けてるというふうにおっしゃったわけなんですけれども、これは現在のところどの程度の申請件数になっているのかっていうのが分かりますでしょうか。

○**今城分科会長** 毛利商工課長。

○**毛利商工課長** 飲食業等設備投資応援事業につきましては、現在91件の申込みを受けているところでございます。

○**今城分科会長** 岡村委員。

○**岡村委員** 現在91件ということですが、トータルとするとどの程度まで受け付けることができる、可能だというふうになるのでしょうか。

○**今城分科会長** 毛利商工課長。

○**毛利商工課長** これが、補助上限額としては1件当たり75万円の上限をつけておりますが、先ほど言った91件も、全てが補助上限までいっているわけではありません。なので、あくまでも推計でございしますが、今回の補正でおよそ60件分程度の増を見込んでいるというところでございます。

○**今城分科会長** 岡村委員。

○**岡村委員** 合わせて150件近くの事業に対して応援するといったことで、ぜひ地域の商工業のコロナ感染症対策という形で応援していただきたいというふうに思います。

最後に、Go To TravelキャンペーンPR強化事業についてお尋ねしたいというふうに思います。今、首都圏や大阪なども含めて、都市部で感染症が広がりを見せてるといった、こういった状況の中で、こういうGo Toの効果っていうのは一時的、限定的ではないかというふうに言われてる部分もあるんですけども、これについてはどういうふうに分析されてますでしょうか。

○**今城分科会長** 岡文化観光局長。

○**岡参事兼文化観光局長** Go Toキャンペーンについてでございますけれども、これにつきましてPR事業を計画しているところでございますけれども、この事業を行うことによりまして、地域の魅力、こういうものがあるというのを全国にまずはPRするということが一つでございます。そこでこの地域のことを知っていただいて、それに対して来ていただく。安心な地域であるということも含めて、多くの方に来ていただけるのではないかと、いうふうに考えております。

○**今城分科会長** 岡村委員。

○**岡村委員** いろんな方に来ていただきたい、平常時だったらそういうふうなことが言え

るんですけども、こうしたコロナ感染が広がっている中で、どうぞどうぞと、全部ウェルカムですよというふうなことっていうのはいかがなものかなというふうに私は感じております。そういった中で、やはり呼び込みに当たっては様々な形で感染症防止対策っていうか、そういったものっていうものも市としてもできる限りの手だてを打つことが必要だというふうに思うわけですけども、例えばPRするにしても、そういった点についてどう徹底するのかとか、それとかまた地域の観光業者の方にどういうふうな形で徹底するのか、そういった点、今具体的にどういうふうにお考えなのかお尋ねします。

○**今城分科会長** 岡文化観光局長。

○**岡参事兼文化観光局長** PRを実施いたします際には、例えば体調不良の方には旅行を控えていただくような呼びかけをしたりですとか、あるいはこちらで受入態勢としてホテル、旅館等できちんと事前にチェックできるような態勢をする、消毒体制を万全にするといったような受入態勢の整備といったことと併せてやっていきたいと考えております。

○**今城分科会長** 岡村委員。

○**岡村委員** ぜひそういった点について、やはりこういった事業によって感染が当地でも広がるということがないように、万全の対策というか手だてを取っていただきたい。私も今この時期にやるべきなのかといったことについて非常に懐疑的なんですけども、やるからにはこういった点をぜひ抜かりなく徹底してやっていただきたいということを要望しておきたいと思います。

○**今城分科会長** ほかにはございませんか。

遠藤委員。

○**遠藤委員** 商工業振興資金の貸付事業、今、岡村委員からも御指摘がありましたけども、これ貸付金っていうふうになってるんですけども、債権債務でいったらどういう形になるものなんですか、これ。市の債権債務でいったらどういう形になるんですか、貸付金っていうのは。貸付金ですけど、これは債権でしょう、違いますか。

○**今城分科会長** 杉村経済部長。

○**杉村経済部長** 前々からある制度でございまして、ちょっとその債権債務にどういう形で当たるのかっていうことなんですけども、今日、予算決算委員会のほうでも御答弁申し上げましたけども、融資実行が行われてから、市のほうで金融機関に一定の割合に乗じた預託額を預けていくと。これを継続分は残った融資額に対する預託を年度当初にしていく。それから、新規のものについては、その都度都度出てくるわけですから、それに対応する預託額を金融機関に預託、預けていくと。実態としては、年度末、3月31日に預けた預託額は一旦、市のほうに金融機関から返していただいて、継続分は再度また新年度当初に預託をしていき、そして年度中途の新規分はまた預託として金融機関に預けていくと、そういった形でございます。それが債権債務ということになりましようかどうかというところでございますけども、実態としてはそういう形で、市の資金をキャッシュフローの中で捻出して金融機関に預ける、そして年度末に返していただいて、継続分は年度当初にまた預けていき、新規預託はその都度都度、月締めで金融機関に預けていく、こういった仕組みで運用をやっているという状況でございます。

○**今城分科会長** 遠藤委員。

○**遠藤委員** これは前にも議論したことがあるんですけども、明確な僕は説明にいまだか

つてなっていないということで不満を抱いているんですけども、状況は分かりますよ、慣例的にこういうものが行われてきたというのは。片山知事さんも本に書いてらっしゃいます、こんな不思議なことをやってるなって言ってらっしゃいましたけども、それは置くとしても、私が気にするのは、この貸付金が債権だった場合には、公債権なのか私債権なのかという仕分が出てくるわけですよ。そうすると、仮に滞納になったときにはどういうふうにするのかという問題も出てくるんじゃないかと思って、非常に金額が大きくなってきてますから、180億と、そういうことの心配をしてるわけですが、そういう心配は要らないんですか。

○**今城分科会長** 杉村経済部長。

○**杉村経済部長** 本来ですと、預託したときには資金を金融機関に預けるわけですから、利息というものを、利子というものがついてくる。その利子分を、逆に言うと、制度融資の中で少ない、低い利率にさせていただく、そういうところで運用をしていただいております。実態といたしましては、その利子を受け取らないので、各金融機関に関しては、例えばその金融機関が倒産したなりっていうときのセーフティーネットの関係がありますけど、これ、たしか上限が、それぞれで上限設定があったかと思っておりますけど、その対象にはならない。要するに、その利息を受け取らないことによって、預けた融資については全額担保されているというふうな認識でおります。

○**今城分科会長** 遠藤委員。

○**遠藤委員** ちょっと分かりにくいんですけど、今までの貸し付けた分の滞納というのはあるんですか、件数が。全くそういうことは処置はされてないんですか。例えば、今説明があったような県の信用保証協会が全部負担してごいてるんで、市には一切負担というものは生じてないということなんですか。

○**今城分科会長** 杉村経済部長。

○**杉村経済部長** 預託につきましては、預けたものは全額年度末に同額を返していただいております。おっしゃってるのは債務保証のことかなと思いますが、これにつきましては、今、小口融資に関しては市の債務保証の責任割合、信用保証協会がほとんどもたれますけど、市は債務保証の10%程度を確か負担しているということで、仮にその事業者が返済できなくて、その部分の債務が残っていた場合には、小口融資に関しては、記憶ですけども、10%程度の市の債務保証の責任割合が生じてくる。その他の県市協調の制度融資については、保証協会なり県が負担しておられて、市のほうにそういったものは生じてこないという内容でございます。

○**今城分科会長** 遠藤委員。

○**遠藤委員** 極端な言い方しますと、例えばこれが今180億なんですけど、300億、400億になっても心配はないというふうに理解しちゃっていいですか。

○**今城分科会長** 杉村経済部長。

○**杉村経済部長** 小口融資以外の部分についての市のそういった債務保証の責任は生じてこないということでございます。

○**今城分科会長** 遠藤委員。

○**遠藤委員** そこで伺いますけど、この財源を見ると、その他財源ということになってますよね、この92億7,350万8,000円は。このその他財源というものは何に値する

んですか。というのは、午前中の岡田委員さんの質問のやり取りの中で、総務部長が、財政が逼迫してくるんじゃないの、これだけ大きな予算を使うということの話の中で、僕の聞いているのが正しかったかどうかは分かりませんが、総務部長は、財政が非常に逼迫してくれば、臨時債とか一時借入金とかそういうもので対応してまいりますというような話をされたんですけども、この財源は一時借入金というようなものが入っておるんですか、これ。

○**今城分科会長** 杉村経済部長。

○**杉村経済部長** この融資額の補正額、あるいは当初予算額については、その一時借入れの利息、こういったものは含んでいないということでございまして、仮にその一時借入金が出れば、それは別途の費目として予算に計上されるべきものというふうに理解をしております。

○**今城分科会長** 遠藤委員。

○**遠藤委員** ということは、補正前と比べて180億、これ、預託が180億、米子市の今の財政規模で銀行に単独のお金で預けておられるということですよ。それだけの余裕があるということですよ、逆に言えば、預託するだけの。

○**今城分科会長** 杉村経済部長。

○**杉村経済部長** 全体の市のそういったキャッシュフローの中で、市の持っているキャッシュについて、極力それは一借が生じないように預託として金融機関に出しているというふうに理解しておりますが。今までもそうであったというふうに思っておりますが、今回のようにこれぐらいの規模の預託額が出てくれば、キャッシュの部分が不足してくる状態もあり得るというふうに思っております。その辺りは財政なり会計課のほうで、しっかりとキャッシュフローの中で極力一借が発生しないような運用はしているというふうに思っておりますが、具体的に実際預ける資金がない場合には、一時借入金も発生してくるというふうに理解をしております。

○**今城分科会長** 遠藤委員。

○**遠藤委員** 分かったような話をこれが掘り下げてみてもどうしようもないですけどね、この事業の在り方そのものの、一般会計でくくること自身に疑問をずっと以前から抱いているんです、私は。これが特別会計ぐらいで処理すべき内容なものじゃないかというふうに言うんだけど、それは逆に予算が分散したことで見にくいだとかなんとかへ理屈を述べていらっしゃいますけど、私はこの財源の在り方を含めて、事業の在り方を含めて、一般会計で処理するということについては限界に来ているんじゃないかということをお金の大きなこの予算額によって私は感じております。だから、そういうことについて今後検討できるかどうか、要望しておきます。

それと、6ページの飲食業等設備投資応援事業、ここで、今、岡村さんも議論されましたけど、私、ここで気になるのは、必要な設備投資の施設改修等に当たるということなんだけど、これの審査基準というか、あるいは審査体制、これはどういうふうになっているんですか。

○**今城分科会長** 毛利商工課長。

○**毛利商工課長** 今回の設備投資応援事業の審査につきましては、感染症予防の店内の改装等、それから業態ですね、例えばテークアウトを始めていくためのいろいろな経費とい

うようなものを対象としていることをございまして、書類にそういったやっっていくことを書いていただく申請書をチェックをさせていただきながら審査をし、決定をしているというところをございます。

○**今城分科会長** 遠藤委員。

○**遠藤委員** その審査をされる体制っていうのは、どこでどういうふうになるんですか。市が直接やるんですか、担当課があつて。

○**今城分科会長** 毛利商工課長。

○**毛利商工課長** 担当課で行っているところをございます。

○**今城分科会長** 遠藤委員。

○**遠藤委員** 何でそういうことをこだわるかということ、以前に、たしかこれ都市経済委員会だったと思うけども、国の補助金があつて、間違つて2億円だか返還したという事件がありましたよね、事件っておかしいけども、誤差が。だけん、僕はそういうことがどこで起きたかということ、担当課の窓口でやっておきながら、それが起きたんですよ。そういうことがあるもんですから、いっても税金ですからね、これ交付金といえども、その税金がどういうふうに正しく使われておるのかということの流れがきちんと確認できるかどうかということをあえて疑念を持ったもんですからお尋ねしたわけです。その辺の審査体制というかを含めて、きちんとできてるということでいいですね。

○**今城分科会長** 毛利商工課長。

○**毛利商工課長** 要綱に対象経費の項目を記載して、その部分に当たるようにきちんと審査をしているところをございます。

○**今城分科会長** 遠藤委員。

○**遠藤委員** それから、次、宿泊業緊急支援事業、私の新聞報道の読み間違いであつたらごめんなさいと言わなきゃいけませんけども、それをたしか二、三日前だったかなと思つたんですけども、新聞報道によると、この4,000万円の補正前の予算に対して、実際に今支出されてるのは2,600万円だかというような記事が載つたような記憶があるんですけど、そうではなかったですかいな。私はそういう何か新聞を読んだ気がするんです。

○**今城分科会長** 田仲観光課長補佐。

○**田仲観光課長補佐兼観光戦略担当課長補佐** 議員御指摘のとおり、3日前ぐらいの新聞だったと思いますけども、現在の状況で2,600万程度ということで報道されてたかと思ひます。

○**今城分科会長** 遠藤委員。

○**遠藤委員** いや、そうすると、補正前の4,000万がまだ消化できんのに、さらに2,000万円追加するというと、何となくちょっとしっくりこないんだけども、この辺のとはどう見込んだ上でこういうことになるんですか。

○**今城分科会長** 岡文化観光局長。

○**岡参事兼文化観光局長** 利用状況を毎日チェックしておりまして、それから推計していきますのに、7月末まで実施いたしますと約2,000万ぐらい足りないのではないかとこの計算をしたところをございます。

○**今城分科会長** 遠藤委員。



○**遠藤委員** ちょっと分かりにくかったけど、僕が今前段のところ尋ねたのは、担当課の人も確認されておられるけども、4,000万の補正前の分がまだ半分ぐらいしか消化できてないというところで、2,000万円追加するというのはどういう意味ですかということを知りたいわけですよ。

○**今城分科会長** 岡文化観光局長。

○**岡参事兼文化観光局長** 7月19日の時点で、約3,400万の利用がございます。これで推計していきますと、恐らくプラス2,000万ぐらいの不足が出てくるんじゃないかということで計上したものでございます。

○**今城分科会長** 遠藤委員。

○**遠藤委員** 岡さん、そのしゃくし定規で話してもらったって訳が分からんだけど、新聞報道のものと、この分の追加の関係の違いというのはどこにあるわけ。新聞報道は5割しかまだ補正前は使ってなかったということになっとるわけだ。だけど、今回はそれが足らんけん、2,000万追加せないけんていうことなのでしょう。そうじゃないわけ。

○**今城分科会長** 伊澤副市長。

○**伊澤副市長** 私のほうからお答えします。私もその新聞記事見ました。遠藤委員のおっしゃってる記事を見た記憶があります。今、岡局長のほうからもお答えしましたが、担当課のほうでは日々の集計をつくってまして、それで管理してます。新聞記事、これは私、確認したわけじゃありませんので、私の理解だということでお聞きいただきたいんですが、新聞記事に報道されたのはその時点、記者さんが取材されたその記事を書かれる前日か前々日の時点での支払い済額、つまり請求書がやってきて、店舗から、それを払った額が2,600万ということだと思いますが、それは御案内のとおり、実際に消費が起きて、店舗がそれをまとめて、日々請求されるところもあるかもしれませんが、ある程度まとめて請求されるところもありますので、実際に日々店舗から上がってくるもの、消費が出てくるものと、それから実際に市が払うまで、それから支払いの手続も若干要りますので、タイムラグがあります。したがって、新聞記事に書かれた時点で2,600万っていうのはある意味正しい数字なんですけど、それは支払い済額がそうだというだけの話で、恐らくその時点でもっと実際の店舗での消費は進みますので、それで、先ほど岡局長が申し上げたとおり、7月19日時点ですか、でもう既に3,400万と。その日計をずっと追いかけていくと、大体1日当たりどれぐらい消費されてるといって平均値が出てきますので、その率で月末まで延ばすと、もう2,000万ぐらいちょっと足りないという見込みを立ててるといってあります。以上です。

○**今城分科会長** 遠藤委員。

○**遠藤委員** 分かりましたが、もう一つ、これ前からも議論の中にさせていただいておりますけども、問題は今回のコロナ感染による経済的な対策、それに伴って国を含めて大きく税金を投入してるわけなんですけども、米子市の場合も同じようにその形でやるわけですが、私はここで大事なことは、将来にわたって、当時どのような形の状況の中でそういう対策をやったんだっていうような検証のできるような、僕は情報収集というか、そういうものは非常に重要になってくるんじゃないかと思ってるんですよ。そういうことを考えると、例えば倒産件数がどうであったとか、雇用者がどうであったとか、それから休業店舗とか廃業店舗とか、そんなものの僕は経済的な支出といってしまうか、社会的な支出と

いいでしょうか、そういうものがあつた中でこういうような対策を取ってきたんだという  
ような歴史的な検証ができる情報収集というのをきちんとやっておかれるべきじゃないか  
と思うんですが、それについてはやっておられるんですか。

**○今城分科会長** 杉村経済部長。

**○杉村経済部長** 現下のコロナ禍の状況でございます。そういった意味で、今後も様々な  
状況の変化があり、あるいは国の施策対応もそのコロナ禍の状況によって変化をしてくる  
であろうというふうに思っております。したがって、今このコロナ禍にあつては、現  
状の状態がどうなのか、そして少し終息のほうは今見えておりませんので、ある程度近い  
将来の状況がどう変化していくのか、そういったものは午前中の予算委員会で岡田議員さ  
んの御質問にも御答弁させていただきましたが、しっかりと地域経済の状況は把握してい  
くと。それから、国なり県の対応がどう変わっていくのか、それも注意深く注視して、本  
市としてどういう、その状況に合わせた対応策をスピーディーに対応していくのか、そう  
いうところに非常に気を遣って、情報も収集しながら、最終的にはどこかで、やはりこの  
コロナ禍っていうのはワクチンなりが開発されて終息に向かつていくであろうというふう  
に思っておりますが、経済もそれに合わせて、世界経済もどう変わっていくかもございま  
すが、そういった終息期については、今回のコロナ禍に行った経済対策等々は果たしてど  
うであったのか、そういった検証はしていくべきであろうというふうに考えておりますが、  
現状としては、すみませんが、終息がいつになるのか、どういう状態で、そのときの経済  
情勢がどうなのか、それはまだ見通せないということで、現状としては今の状況に合わせ  
た対応策を的確に打っていく、そういう考え方でおります。

**○今城分科会長** 遠藤委員。

**○遠藤委員** こういう新しく各種支援事業をまとめたものを配っていただいております、財源  
も含めて、これはこれでいいと思うんですけど、問題は私が今申し上げてることも含めて、  
中間的な報告をやっぱり議会にできるような体制ができんのかなっていう気がするん  
ですね。この間、テレビで見たら、帝国データバンクっていうのがありまして、御存じの  
ように、これはかなりやっぱりコロナ感染によって、東京周辺だったですけど、専門の方  
が各企業を歩いて状況をつかみながら、それを本社で集約して、それを情報を流すとい  
うことをテレビの場で出ておりました。そういうものを考えたときに、米子市の区域内にお  
いても、そういうような動きがどうなっているのかというようなものを、例えば中間的  
でもいいから集約をして、やっぱり我々議会や、あるいは市民の方に情報として提供できる、  
そういうことも非常に僕は大事なことじゃないかなという気がするんですけど、いかがで  
しょう。

**○今城分科会長** 杉村経済部長。

**○杉村経済部長** このコロナ禍の状況がある程度落ち着いてきて、その経済変動もある程  
度状況が見通せるようになった段階で、やはりそういった委員からの御提案でございま  
すので、そういった取りまとめを中間でもやっていくことを検討していきたいというふう  
に思います。

**○今城分科会長** 遠藤委員。

**○遠藤委員** 分かった、分かった。終わりました。

**○今城分科会長** よろしいですね。

ほかにはございませんか。

ないようですので、以上で経済部所管の審査を終わります。

予算決算委員会都市経済分科会を暫時休憩いたします。

**午後 1 時 3 0 分 休憩**

**午後 1 時 3 1 分 再開**

**○今城分科会長** 予算決算委員会都市経済分科会を再開いたします。

予算決算委員会における分科会報告の意見の取りまとめを行います。報告に入れる意見につきまして、委員の皆様の御意見を求めます。

岡村委員。

**○岡村委員** 先ほど指摘させていただきまされたけども、全国的にコロナ感染が広がる中で、Go To トラベルキャンペーンのPR強化事業を行うわけですけども、やはり米子市としてもコロナ感染防止対策を徹底していただきたいといったことについて付け加えていただきたいというふうに思います。

**○今城分科会長** ほかにございませんか。

〔「なし」と声あり〕

**○今城分科会長** では、ただいまの意見を分科会報告に取りまとめをしたいと思いますが、委員の皆様、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と声あり〕

**○今城分科会長** それでは、以上の御意見を踏まえて文案を作成させていただきます。

以上で予算決算委員会都市経済分科会を閉会いたします。

**午後 1 時 3 2 分 閉会**

米子市議会委員会条例第 29 条第 1 項の規定により署名する。

予算決算委員会都市経済分科会長 今 城 雅 子